

NEWSLETTER No. 2

154 東京都世田谷区世田谷4-28-1 TEL.03(422)5341 (内線) 635/636

《本号の内容》

- 1:OBからのたより
- 2:図書館にある地理学関係雑誌一覧
- 3:3年生巡検報告
- 4:オンタリオ・ウォータールーにて(長島弘道先生からのたより)
- 5:教室スタッフの研究活動(前号に掲載できなかった分)
- 7:地形図・卒論・図書リストの整備状況について
- 6:教室スタッフの近況
- 8:1988年、地理学教室の行事記録

OBからのたより

NEWSLETTER NO.1発行後、大勢のOBの方からお便りをいただきました。

NEWSLETTERを読み、最近の地理学専攻の様子がわかり懐かしく思いました。私は、昨年4月から大阪勤務になりました(中庭測量コンサルタント 大阪支社)。生まれて初めての大阪に来て、夏は暑く冬は寒く、おまけに仕事の方も一筋縄ではいきそうもありませんが頑張ってみたいと思っています。 茨木市 武田 裕一さん 56年度卒

今年4月読谷中へ採用となり、現在2年生の歴史を受け持っています。読谷村は、歴史・文化面ですぐれた村で、多くの文化財があります。今、こうした地域のことを教材として取り入れるため勉強しています。

沖縄県北谷町 比嘉 恒雄さん 61年度卒

毎日仕事に追われ、勉強できずにいます。今できることは今すべきですね。練馬区 小出 成孝さん 62年度卒

最近の私は、仕事の都合上、帰宅時間がおそく(毎日、午前1~2時)。休日も昼すぎまでゴロゴロという状況で、このレターの返事も盆休みに入るまでだすことができない程いそがしい毎日です。そろそろ4年生の方は、就職活動や卒論調査も大詰めの時期ですが夏バテせぬ様ガンバッテ下さい。神戸市 福村 秀樹さん S62年度卒

4月に入社以来、すっかり会社に馴染みました。仕事では、システム開発部でプログラマとして頑張っております。まだ、未熟ですがだんだん仕事がおもしろくなってきました。 世田谷区 高橋 秀則さん S62年度卒

現在、母校の埼玉県立秩父高校で地理の非常勤講師をしています。教えはじめた頃は毎夜、「次の授業でどんなことを教えようか」と教材研究で悩みましたが、1学期も無事終わり近頃は『教師』という職にも自分なりに慣れてきたところです。1日の授業が終われば、放課後は生徒と共に部活動です。自分が所属していた卓球部で、今度は顧問として後輩と汗を流しながら指導にあたっています。 埼玉県秩父郡 山口 学さん S62年度卒

図書館にある地理学関係雑誌一覧

数字は所蔵開始の巻号、*は欠号があることを示しています。ただ、未調査のものについては記載していません。また、このリストは1985年までの図書館の雑誌目録をもとに作成したものです。したがって、それ以降に購入を始めたものは含まれていないものがあります。このリストには、大学紀要・大学の教室が主催する地理学会の会誌などは含まれていません。☆は、一部の巻号を地理学教室で借用している雑誌です。図書館と研究室とで分散して保管されているので、学生が使用する際には多少不便です。このリストは少人数で短期間に作成したものです。したがって調査・記載もれがあることが予想されます。リストにない雑誌を利用した場合は連絡をください。このリストを充実させるためにご協力ください。

Agricultural and Forest Meteorology			
Annales de geographie (Paris)	1~*		
Annals of the Association of American Geographers			
Archives for Meteorology, Geophysics and Bioclimatology, Series B			
Arctic and Alpine Research			
Die Erde	97~		
Economic Geograph	1~*		
Erdkunde	20~		
Geografiska Annaler, Series A (physical)			
Geographical Journal	132~		
Geographical Review	56~*		
Geographical Zeitschrift			
Geography	63~	1 46~	工学部
GeoJournal			
Heating, Piping and Air Conditioning Journal	45~		工学部
Institute of British Geographers Transactions and Papers			
Instruments and Control Systems	40~*		工学部
Journal of Climatology	8~		
Journal of Geology			
Journal of Geography			
Journal of Irrigation and Drainage Engineering(ASCE)	90~		工学部
Journal of Soil Science			24~工学部
Nature			工学部
Progress in Physical Geography			
アジア研究		地理学評論	1~* ¥
海洋	9~**	地学雑誌	57~* ¥
科学	39~*	地域	1~11 (1982年廃刊)
科学朝日	26~*	地球科学	35~
観測所気象年報		地理	1~* ¥
環境研究	1~	地質学雑誌	52~*
気象	369~	地図	1~*
気象年鑑		地形	1~
気象庁月報	61~	地理科学	1~27 ¥
気象庁年報	昭和57~61	地域開発	30~*
経済地理学年報		地理学研究	1944年廃刊
公害研究	2~	地理教育	2~1932年廃刊
公害と対策	8~*	日本気候表	
サイエンス	3~	日本生態学会誌	
社会地理	1955年廃刊	日本民族学会報(日本民族学に改称)	43~
新地理	1~ ¥	農業気象	
植物と自然	鶴川	農村研究	1~44 ¥
水利科学	1~ ¥	農業総合研究	1~33 ¥
水温の研究	1~	民族学研究	14~
第四紀研究	1~	歴史地理	
土質工学会論文報告集	17~	歴史地理学	
東北地理	1~*	歴史地理学会年報	
東京大学地震研究所彙報			
東京都気象月報			工学部

巡検報告 10月17(18)~20(21)日

名古屋：大崎 晃教授 秩父：野口泰生助教授 松本：太田晃舜講師
松井田：長谷川 均講師 一関：横山 秀司兼任講師

大崎グループ名古屋に挑む

大崎巡検：大津 晶子

何故か、国土館大学の地理巡検は北日本方面の傾向が強い中、私達大崎グループは西へ。東海道新幹線で約2時間の名古屋へ行ってきました。

大崎先生と学生で総勢19名のこの一行は、名古屋市西部に位置する千種区は王山会館を拠点に、中京圏というフィールドに挑んだわけです。

各自の調査対象は地場産業、農業、工業、観光業、都市開発とバラエティーにとみ、毎晩行われた調査報告会は、とても楽しみなものでした。なぜなら、18名の調査報告を合わせると、中京圏が幾方面からも見ることが出来、中京圏の本当の姿が、少しづつ私達の前に現れてきたのですから。

地理の勉強といえ、教室の中での90分の講義と積み重なる課題と取り組んでいる私にとって、自由な時間と限らない空間での調査はとても効率が良かったと思います。そして、調査地域の方の温かい御協力、大崎先生のアドバイスにとっても感謝しています。

最終日の朝、全員一緒に写真を撮りました。卒業アルバムに使うのだそうです。私は思いました。この調子で進級、卒業と続きたいものだ。

どっと疲れた野口ゼミ秩父巡検

野口巡検：井上 正彦

今回の巡検は埼玉県秩父市周辺の気候調査であったが、正直いって悪戦苦闘の連続であった。アクシデントが重なり、思うような調査ができなかったからだ。

天気のせいにするわけではないが、すべては雨から始まった。17日夜から18日の夕方にかけて降った雨のおかげで、大幅な計画変更を余儀なくされた。17日夜のヒートアイランド調査は、デジタル温度計のプロープに水が入り、データの信頼度が下がってしまった。また、観測ポイントを見失ってしまうこともあった。18日の斜面の温暖帯調査も、どしゃ降りのため中止。その夜、計画変更の話合いもたらされたが、侃々諤々となりメンバーの疲労も重なるばかりだった。19日からは天気に恵まれたが、事前の調査不十分で失敗。結局一応の成果をみたのが、20日早朝のヒートアイランド調査だけである。

この苦惱続きの背景には、事前調査の不足が上げられるのではないだろうか。事実、巡検の案内が配られたのは2週間前。それから下調べを行ったのは、ちょっと遅かったのではないだろうか。しかも、その間全員（先生を含む）が、一堂に顔を合わすという機会がなかったのは手痛い。また、調査内容は各自が調べて来るというのも、他人まかせにしてしまう元になってしまった気がする。

地理学は、学問の性格上地域調査を行わなければならないケースが、非常に多い。あくまでも調査であって、ただの旅行ではない。何かを調べたら、必ず答え（あるいはそれに準ずるもの）を出さなければいけない。その予測をたてるには、事前調査が必要だ。という理由で、今回は事前調査の重要性を認識させられた巡検であった。

ところで、今までの巡検は2泊3日が最長であった。3泊4日というのは、非常に長い。同じ仲間といっしょに4日も過ごすというのは、勇気のいることだ。筆者は高校時代山岳部に所属していたのだが、仲間と4日も山で生活しているといやになってくる。今度も何か事件でもあるのかと心配(?)していたのだが、幸いにしてそういうこともなく穏便に終わった(約1名、浮かれていた者がいたが...)。ただ人間、生活環境が変わるとどこかおかしくなるもので、体調がおかしくなる人も多かった。特に寒さには対策が甘かったので、カゼをひいた者が多かったのは残念であった。この業界はからだ資本。どんな環境にも耐えうるからだが必要だ。

《補足》 巡検中、秩父測候所の見学、昨年風布(ふっぶ)地域でカンキツ栽培と斜面の温暖帯に関する優れた卒論を書いた山口君による現地案内もあった。「2週間」は、事前調査に十分な期間である。要はやる気。
(野口)

地理巡検を終えて

太田巡検：大川 香織

われわれ、太田晃舜先生にご指導いただいている“太田ゼミ”18名は去る10月17日月曜日より20日木曜日までの4日間、長野県松本市において地理巡検を実施した。

“論文作成に必要な地域調査法の習得”を目的とした地理巡検の対象地域を松本にした理由は、通常一般的な産業は平均的に展開しており、それに加えて観光資源に恵まれているので、それらに関係した興味ある関連産業が数多く展開されていること、地場産業が数多くあること、また、“市”であるので個人々の研究目的に合った資料が得られやすく、能率および研究結果に期待が持たれるからである。とりわけ農業に関しては、平坦地と山

間部の農業形態の違いについて興味がわく。山間部においては、かつての桑畑の再開発、再利用についての研究が一例としてあげられる。

ここで、太田巡検の様子、成果などについて簡単に報告する。まず、17日午後1時にJR松本駅に集合したわれわれは、太田巡検のベースキャンプとなるホテル「よろずや」へ荷物を置くやいなや、直ちにそれぞれの研究目的地へ、資料収集へと向かった。しかし、初日ということではなかなかうまく資料も集まらない。私としてもとりあえず市役所へ向かい、研究テーマに関係した概要を聞いただけでこの先どの様になるのか不安になった。皆も宿舎に帰って来る表情は暗く、十分な成果を得られなかったことを感じた。

その夜のミーティングにおいて、太田先生より「一日目はそんなものだ。着いてすぐ簡単に把握することは難しい。二日目、三日目ともなればだんだんと光が見えてきて最後の日もなれば、“もう少し残って調べていきます”と言い出すよ」と、寛大な言葉をいただき皆の不安であった表情もしだいに和らいだようだった。

巡検二日目は、9時からスタートする。早い者は8時半には調査地へと向かった。この日の調査は研究の進行上で大きなウェイトを占めることが予想でき、油断は許されない。あくまでもしつこく、少しでも多くの資料を集めるようにと太田先生のアドバイスを受ける。

夜のミーティングにおいては、各自で研究の骨組みができたらしくそれぞれ太田先生より助言をいただき三日目の正念場を迎える。三日目になり、まとめの段階に入る者、まだまだ資料を集めなくてはならない者など各自の調査地へと向かって行った。この頃には皆の顔も自信に満ちてきて夜のミーティングにも、太田先生のご指導、ご助言に力が入る。四日目は午前中まで調査を行い、午後には解散となった。あつという間の四日間ではあつたが中身の濃い巡検になった。

最後に、ご指導いただいた太田晃舜先生、そして太田ゼミの皆さんお疲れさまでした。

巡検悲話・秘話

長谷川巡検：市川 清士 +α

私たち長谷川ゼミでは、今回の巡検で碓氷川の河岸段丘を堆積物や段丘面の地形的な特徴から対比、分類することを目的にしました。詳しくは、12月17日の国土館大学地理学会で発表しますのでここでは巡検中のエピソードを少々暴露したいと思います。

まず、第一に運転手役のわたくし市川の左目が突如腫れてしまったことからお話ししたいのです。治そうとして目玉にウナゼリーをつけたら、翌朝わたくしは「お岩さん」になってしまいました。慌てて薬屋に駆け込み、目薬でやっと治りました。プヨに刺されたのが原因のようです。ちなみに、足が「ボンレスハム」になった女の子もいました（ねっ！並木さん）。皆さん気を付けましょう。

第二に、某君の寝言です。先生は一晩中気になって寝られなかったそうです（が、そんなはずはない）。そして極め付けは、トロピカル××××氏のイビキです。一部の人は知っていると思いますが、そのすごいこと……。アンズノールは 糸色支す ききません。もう一つ、某氏は3年生の九州・甘木出身、K君の物まねをマスターしたらしく、4日間ずーと「あのな、これかな、テプラだ……」の調子でした（アクセントをつけて読んでみましょう）。

第三は宿泊先、富岡の群馬県立××××館。由緒ある所なのですが、朝は6:30起床、7:00国旗掲揚、ラジオ体操、8:00朝食までの間は掃除と、巡検でこんなことするとは思っていませんでした。ちなみにわたくし市川は、熱が出たふりをして国旗掲揚をさぼりました。また、ここはとても寒く窓は木の枠に薄いガラス、廊下は板張り、すきまから地面が見えていておまけに暖房は無し……凍えました。

また、この巡検で「国土館大地理学スペシャル」と銘打ったカーリーナ・パンは、道無き道を走ったためドック入りとなってしまいました。

『今回の巡検で市川君が運転手でなかったら、あれだけたくさんの露頭を回りきれなかったでしょう。感謝とともにお疲れさまでしたと言いたいです。ご苦労さまでした』 ××子。

いろいろ書きましたが今回の巡検で、私たち4人は地形調査法についてとても勉強しました（やる時はやってんだかだ〜！）。1、2年の諸君、長谷川ゼミはバイタリティーあふれる人を待っています。

また、関係ありませんが、沖縄でサンゴ礁の勉強をしたい人をわたくし市川は募集しています。よろしく！！。

超個性的集団！横山ゼミ！

横山巡検：宮川 晴夫

個性派の横山ゼミは、8名という少ない人数で自由な雰囲気の研究している。卒論一次計画書を見た横山先生は「テーマがバラバラだァ！ 長島先生が帰って来たらビックリするぞォ」と頭を抱えてしまった。

各自のテーマに合わせるようにと巡検候補地を考えていただいた結果、岩手県一関と決定した。「アットホームで行こう！」と横山先生のかげ声で我々は先生と学生8名、そして「このメンバーでは何をしておかずかわからん！」と丸山主事が参加し合計10名で目的地へと向かった。早朝からの出発で眼目をこすりながら巡検初日は終った。一関で調査する人と周辺地域へ向かう人が半分半分で、遠くは盛岡、遠野まで調査に行く者もいた。

横山先生は過労の余り体調を悪くされたが、それでも最後まで我々を激励して下さった。ミーティングは内容

が濃く、熱い時間となった。我々は風邪で苦しそうな横山先生を見て、「絶対、他のゼミには負けないぜ」と団結したのであります。

朝から日中までもコートが手放せなかった寒い岩手県で、もう真っ暗になるまで資料を集め、聞き取り調査に励んだ。そして3日目の夜「私の予想以上に素晴らしい巡検だった」という横山先生からの言葉に我々は喜んだ。最終日は、敷美郷の地形案内を横山先生からしていただいた。

「小教精鋭」という言葉がよく似合う我々ではあった。しかし、残念なことに横山ゼミは今年しか開講しない。来年は長島先生にバトンタッチされる。横山先生に基礎を教え込まれ、長島先生によって完成されるという最高の布陣で研究できるのは幸せだ。横山先生、大変ご迷惑をおかけしました。(誰だ! 天国から地獄だなんて言ってるヤツは...)。長島先生、来年カナダから帰ってきたら忙しくなりますよ。覚悟しておいて下さい。僕たちも覚悟しています.....。

オンタリオ・ウォータールーにて

長島 弘道

皆様お元氣のことと存じます。4月16日にカナダ入りして以来6ヶ月が経過しました。7月までは、スイスに出かけて留守の先生の部屋を借りて、そこでウォータールー地域の総合開発計画関係の文献に当たることが多かったのですが、7月にミネアポリス、ニューヨークに出かけてからは、8月のニュージーランド、オーストラリア、9月は益子町史案業編の執筆、10月ニューハンプシャー、ワシントンDC行と忙しい日々が続きました。先日ワシントンから帰りましたら、事務の人から「トラベリング プロフェッサー」といわれ、なるほどと納得した次第です。今後また資料蒐集にニアガラ地域、トロントの西の方へ出かけますので、その時はどのような表現で迎えられるか楽しみにしています。

サステイナブル (sustainable)

こちらにくる前からカナダではできるだけ多くの会合に出席し、そこでどういうことが議論されているかを知りたいと思っていました。6月はじめにカナダ地理学会の総会・研究発表会がハリファックスのセント・メリー大学でありましたので参加しました。240以上の研究発表とConservational Strategies (環境保全のための戦略)、Environmental Issues in the Maritimes (ノバスコシア、ニューブランズウィックなどカナダ東部地域の環境問題)、Global Change (地球全体としての環境の変化)がありましたが、この会合でのキーワードはサステイナブルということでした。このことばは、「支える」「維持する」という意味ですがカナダでは5年位前から使われているそうです。先般マルルーニー首相が国連総会で演説した時も“environmentally sustainable development”ということをしておりました。sustainable developmentについては何人かの人が定義していますが、最も分かり易いのはノルウェーのブラントランド首相が委員長を務め、日本からは大来佐武郎氏に加わっている環境と開発に関する委員会の報告書“*Our Common Future*”の中でのべられている次の文章ではないかと思えます。

“Sustainable development is development that meets the needs of the present without compromising the ability of future generations to meet their own needs.”

つまり我々が得たと同じ様な状況で次の世代の人達も開発ができるような、そういう形の開発をしていこうということになるようです。言葉としては分かるのですが、では実際にはどのような開発をするのか、資源管理 (Resource Management) とはどのようにちがうのかといった点に関しては必ずしも明確になっているわけではなく本格的な議論はこれからとの印象をうけました。

マルティカルチュラルイズム (Multi Culturalism)

どうも片仮名が多くなってしまっていますが、カナダのひとつの特徴は人種・言語・文化的背景を異にする人達によって国が成り立っていることです。カナダの人種・言語に関しては、フランス系カナダ人の多いケベック州、ウクライナ系カナダ人の多いマニトバ州ウイニペグなどが話題になりますが、ウォータールー地区にも人種的・文化的背景を異にする人が多く住んでいます(図参照)。

私が現在住んでいる部屋の前の住人は西ドイツから移住してきた人達で、25才の青年が1986年に最初に移住し、翌年両親を呼び寄せ、現在は3人で自動車の修理と販売をしています。彼の母親は英語が話せません。今の部屋に移る前、同じ建物の半地下の部屋に20日間ほどいたのですが、その部屋の現在の住人は香港からの移住者で既に結婚しており、2人とも近くにあるウイルフリッド・ローリエ大学の学生です。よく食事に出かける中華料理店が3軒あるのですが、1軒は3年前に香港からきたとっていました。もう1軒はベトナムの難民だそうです。この中国系女主人の立居振舞は日本人に非常によく似ています。

以前タクシーに乗ったとき、運転手に出身をきいたらポルトガルとっていました。私が今大学で部屋を借りている先生はポーランド出身です。

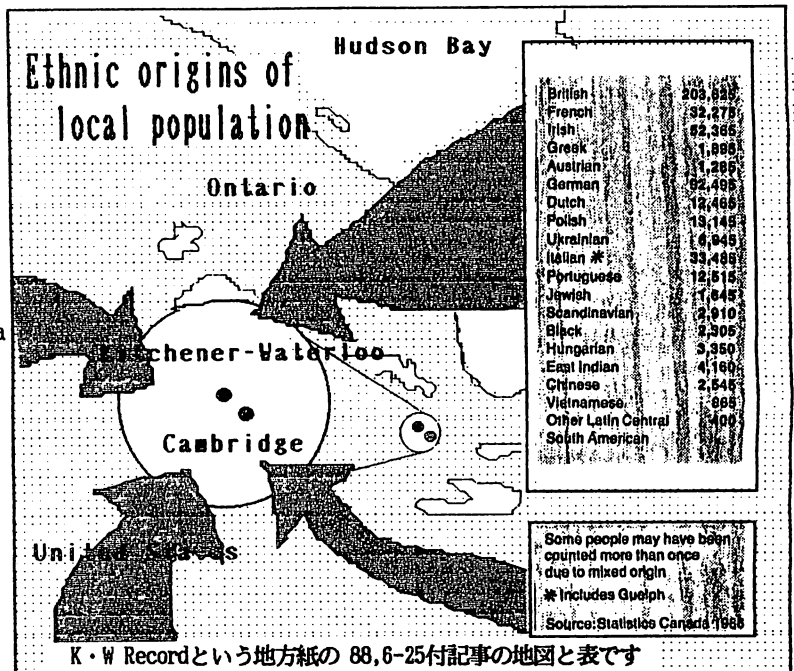
移民によって国が成立しているという点ではアメリカと同じですが、それぞれの人種の・文化的背景の維持存続を認めている点ではアメリカとはちがうように思われます。カナダでは今年マルチカルチュラリズム法 (Multi-culturalism Act. 多元的文化的主義に関する法律) が制定されました。マルチカルチュラリズムと市民権を担当する大臣の椅子も設けられました。いまテレビでこの法律の広告が流されています。まだ本文はみていませんが人種、言語、文化的背景を異にした人達によって成立していることを前面に打ち出した国づくりをしようということのひとつの現れだと思います。

出身が同じ人達でそれぞれ組織を作り、そこでその国の言葉を子供達に教えたり、毎週集まって食事をしたり、情報交換をしています。またある場合はそこまで組織化されておらず、とにかく働くための技術を身につけるべく職業訓練所に通っている人もいます。この種の組織及び活動に対する考え方は、カナダにどういふ状況で移住した日によっても異なり、年齢によっても異なります。前述の25才の青年の場合は、この種の組織には関心が無いようですが、難民としてカナダに移住が認められた人達にとっては精神的・物質的両面でこうした組織が必要だと思います。1986年の移民数は97000人うち19%は難民、1980~86の移民数75万人のうちアジアからの移民43%、ヨーロッパ29%でアジアからの移民の割合が増えています (現在のカナダの人口2600万。うちイギリス系43%、フランス系29%)。

キッチナー、ウオーターラー地区にはドイツ系の人達が多く住んでおり、毎年10月に「オクトーバーフェスト」という祭りをしています。今年も行われましたが、その期間私はアメリカに行っていましたので見ることはできませんでした。しかし、多分7月1日のカナダデーを中心としたマルチカルチュラル フェスティバルの方が大規模であったのではないかと思います。キッチナー市内にあるヴィクトリア公園で、各出身国の民族音楽、ダンスのパフォーマンスと民族料理の模擬店も設けられ、なかなかの賑わいをみせておりました。このフェスティバルも最初はいくつかの国の出身者が屋内で有料で開催していたのを、4~5年前から屋外・無料方式にかえたことごとでした。それぞれ文化的背景を異にする人達が一堂に会し祭りをを行うことによって、相互のコミュニケーションをはかることができるでしょうし、新しい発見にもつながります。私は、この祭りでベルギーからの移民がいることを知りました。世界のいろいろな国から多くの人々がきているということは、世界の各地で起こったことに、カナダ人の何人かがかかわりをもつということになります。9月にギルバートというハリケーンがジャマイカを襲いましたが、この時の救援物資の収集、輸送は誠に敏速でした。ギルバートのニュースが流された翌日には、ジャマイカ出身者を中心としたボランティア組織が活動を開始し、ジャマイカに飛行機が着陸できるようになると、早速多分行きに救援物資を積んでいったのだと思いますが民間の飛行機がジャマイカに向かい、帰りにカナダ人観光客を300名以上乗せて帰ってきました。日本は救援物資の輸送が遅いといわれていますので、そういう日本人の目にはきわめて敏速に感じられました。理由は、いろいろ考えられますが、ひとつの理由はジャマイカ出身のカナダ人がベン・ジョンソン以外にも大勢いて、その人達の親、兄弟が現在ジャマイカに住んでいるということです。今回のジャマイカに関していえば、カナダ人観光客が多勢ジャマイカを訪れていたということがもうひとつの要因です。こうして国内、国外を問わず人を通じて世界的視野にたたねばならないのがカナダの現実であり、そうした現実を前提とした発想を積極的に取り入れようとしているのが今のカナダのように思われます。

9月新学期・授業二態

8月までは夏休みで、学生もコープスチューデント (働きながら学ぶ学生) が中心でしたが、9月になり新学期が始まると一般学生がもどってきて構内がにぎやかになりました。彼等の殆どは、大学の名前の入ったグレー、赤、緑、黒等のナップサックを背おっています。自転車できていない学生は決められた自転車置場、時には松



の木等にチェーンでしっかりとめて講義のある部屋に向かいます。こういう自転車置場では10台に1~2台の割合で前輪をはずして、残りの車体と一緒にチェーンでとめてあるのがあります。自分の財産は自分で守るということでしょうか。また、夜遅くなった場合は一人では帰らずに何人かで帰ること、遠まわりでも明るい道を通ること、心配な場合はガードマンを呼び一緒についてきてもらうことなど性的犯罪を防止するための細かい注意が、大学の性的暴行に関する委員会によって掲示されたり、パンフレットが置かれてあったりします。これとの関係で学生の組織 (Federation of Students) は夜間バスを運行しています。加害者は内部の人か外部の人かと事務の人に聞いたのですが、彼女は分からないといっていました。なにせ400 haの敷地、その中をバスが走り、フェンスがないので誰でも自由に出入りが出来ます。ただ実際に被害があったという話はまだ聞いていません。

私は今、「都市近郊 (The Rural-Urban Fringe)」、「AES (Applied Environmental Studies)」という2つの授業と、教室員、大学院生が参加する教室のセミナーに出席しています。「都市近郊」は学部の3~4年生20名ほどのクラス、先生の講義、課題の提示、学生のグループ毎のディスカッション (15~30分)、その結果の報告 (5分) を中心として構成され、途中10分間の休みをはさんで1時間30分から4時30分まで3時間の授業です。先生の質問には必ず複数の学生が発言し、なかなかいい雰囲気です。休み時間のあとマフィンなど食べながら話をきいている学生もいます。この授業の一環として先日はウオータールー近郊の巡検に出かけました。車3台、1台は先生、あとの2台は助手と大学院生が運転し、約3時間コンパクトで効率的な巡検でした。

「AES」は、大学院のマスタークラスの学生が対象で、本学の大学院生もいますが、既に役所に勤めている人の方が少し多い15~16名のクラスです。午後2時間 (3:30~5:30) はコーディネーターの先生と、10人の教室員が交替で担当する理論篇、夜の2時間 (7:00~9:00) は毎回外部講師を招いての講義、この方式で11月の末まで11回が予定されています。この方式は今年が初めてのこととして学部長をはじめとして先生達も大分力を入れていました。今回のテーマは「地方における経済開発」、第1回は地方における経済開発のフレームワーク、第2回はローカルエコノミック ディベロッパーの役割、第3回メガトレンドと地方における経済開発といった具体的なテーマが毎回設定されています。夜の講師には連邦、州、市等の経済開発担当者が多く招かれています。学生の方も役所に勤めている人がいるので、サドベリーのあの件は実際にはどうなっているのかとか、ウインザーについてはそういう話は伝わっていないなど、あたかも彼等の仕事上のやりとりのような内容になることもあります。

この授業の一環として先日は隣のグエルフ (Guelph) 市の経済開発課に出かけました。ここにはまだ200haの工業用地が残っているのので、今後も積極的にハイテク関係の企業誘致をしたり、特に日本企業の進出を期待しているとのことでした。これまで何回か経験したことですが、経済、工業関係に話が及びますと必ずといっていいくらい「Japan」という言葉が耳に入ってきます。またこの課長は、日本企業と交渉するときよく質問されることとして ①既に進出している日本企業はありますか、②日本料理店はありますか、③日本人学校はありますか等があるといっていました。2つの授業とも今日のカナダをとりあげており、私にとっては貴重な情報源になっています。

落葉樹の葉が、秋になるとかくも美しい色になるとは知りませんでした。楓にもいくつかの種類があり、ある木は9月はじめ早くも黄色に染まるかと思うと他の木は10月の中旬になってから赤味をおびた黄色に染まります。真紅に染まる木もあります。そしてこれらが一体となって構成する秋の色は将に錦秋の候といったところですよ。

1月の初めイギリス地理学会の年次総会・研究発表会がコベントリーで行われますので、それに出席し、7日にハンガリーに向かいます。

皆様の御活躍を心からお祈り申し上げます。特に4年生の諸君が卒業論文に全力を傾注されんことを期待しております。

教室スタッフの研究活動 (前号に掲載できなかった分)

長島 弘道教授

口頭発表

1988, 10 首都圏における都市政策の農村地域に及ぼす影響。
アメリカ地理学会ニューイングランド、セントローレンス谷支部 (NESTVAL) 年次大会、ダートマス大学、ニューハンプシャー

セミナーでの講演

1988, 10 首都圏における土地政策と農業 - ゾーニングを中心として -
セントラルコネチカット州立大学 地理学教室セミナー
1988, 11 同じタイトルでウオータールー大学の地理学教室セミナー (予定)

地形図・卒論・図書リストの整備状況について

研究室には、古地図・各種地形図・地質図などが、ありますがこれらの完全なリストはまだありません。昭和40年代初期の所蔵地形図リストはありますが、それ以後に購入した地形図類についてはコンピュータ入力中です。この作業は3年生の高橋 敦君が中心になっておこなっています。現在までに1/50,000地形図、千数百枚の入力を完了しました。入力した地形図は、図幅名や測量年など複数の検索項目で検索することができます。地理学教室では過去に、多くの図幅が重複購入されていますが、今になると新旧の地形図が対比できてとても便利です。また、研究室には今年度中に1/50,000地形図、全区幅が揃う予定です。また、引き続いて1/25,000 地形図などについてのコンピュータ入力、購入もすすんでいます。学生の皆さんには、作業の協力を引き続きお願いします。

卒業論文のリストは昭和58年度以降のものについてリスト作りが完了しました。約280 論文の主題・担当教員・公開の可否などについて掲載されたリストがあります。これらの卒論の貸出しについては担当教員に問い合わせることになっています。リストの閲覧は地理学研究室あるいは、教員まで問い合わせして下さい。

研究室所蔵の図書リストの作成は今のところまったくおこなわれていません。研究室には事務職員や助手がおらず、教員が時間を作ってはいろいろな作業をこなしているのが現状です。従って図書リストになかなか手がまわりません。しばらく待って下さい。何人かの人がコンピュータ入力作業を手伝ってくれると大助かりです。

教室スタッフの近況

野口泰生助教授

10月に、二番目のお子さんに恵まれました。夏休み中に熱帯魚飼育の魅力にとりつかれ、沼津巡検では「ピラニアノグチ」と学科主任から云われていた先生ですが、興味の対象が移ったようで最近では飼育の苦勞話(魚の)をしなくなりました。この話には後日談があり、世話を忘れられたピラニアがついに供食いを始め水槽の中は修羅場。

長谷川 均講師

10月末日、何を思ったのか急に引っ越しました。新居は、世田谷の閑静な住宅街にある綺麗な高級マンションである。というのはまっかなウソだ。

1988年 地理学教室の行事記録

- ・地理学科新入生オリエンテーション：鶴川キャンパス（大崎・野口・太田・長谷川） 4月7日
- ・1年生巡検（埼玉県三芳町、三富新田：大崎・野口・太田・長谷川） 5月26～27日
- ・国土館大学地理学会・総会、世田谷キャンパス 就職講演会：谷田川浩之さん（OB、茨城県教員）・福元理恵さん（OB、プログラマ）。講演会：長谷川 均、『ランドサットMSS データによるサンゴ礁の画像解析』 5月14日
- ・3、4年生父兄会：世田谷キャンパス（大崎・野口・太田・長谷川） 5月29日
- ・箱根自主巡検（兼任講師：横山秀司先生指導） 8月26～28日
- ・沼津巡検（国土館大学地理学会主催、大崎、野口、長谷川） 9月12～14日
- ・1、2年生父兄会：鶴川キャンパス（大崎、野口、太田、長谷川） 10月2日
- ・3年生巡検（名古屋巡検：大崎、秩父巡検：野口、松本巡検：太田、松井田巡検：長谷川、一関巡検：横山） 10月17～20日（横山巡検のみ18～21日）
- ・相模原自主巡検（長谷川） 11月27日
- ・2年生巡検（埼玉県秩父・皆野：大崎、野口、太田、長谷川） 12月15～16日
- ・国土館大学地理学会、世田谷キャンパス。ゼミ発表：各ゼミ。講演会：小倉 眞先生（兼任講師）『大都市近郊農業地域における農業経営対応』 12月17日

